

SDGs未来都市等進捗評価シート

静岡県浜松市

2020年8月




SDGs未来都市計画名

浜松市SDGs未来都市計画 ～浜松が「五十年、八十年先の『世界』を富ます」～

1. 全体計画

計画タイトル	浜松市SDGs未来都市計画 ～浜松が「五十年、八十年先の『世界』を富ます」～
--------	--

2030年のあるべき姿	2015年度から、30年後（一世代先）を描いた総合計画をスタートしており、経済・社会・環境の調和等を基調とした、SDGsの理念にも通ずる社会を描いている。「高める」（農林水産業）、「活かす」（エネルギー）、「認め合う」（多様性）など、バックカスティングで設定した「1ダースの未来」（理想の姿）を目指す。
-------------	---

2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール	経済	社会	環境
	ゴール7 ターゲット7.1,7.2 ゴール8 ターゲット8.2,8.3 ゴール9 ターゲット9.1,9.2 	ゴール4 ターゲット4.1,4.2,4.4 ゴール11 ターゲット11.1,11.2,11.3 ゴール12 ターゲット12.2,12.7,12.8 	ゴール13 ターゲット13.1 ゴール15 ターゲット15.1,15.2,15.4 

優先的なゴール、ターゲットに関するKPI	#	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値		2030年		進捗状況や課題等（定性指標や補助指標等を含む）
	1	電力自給率		2013年	6.6 %	2024年	17.6 %
2	市内総生産額		2011年	2兆9,661億円	2024年	3.3兆円以上	2015年度時点で、3兆0,065億円まで進捗した。本市の基幹産業である輸送用機器関連中小企業の自動車電動化等、光・電子における中小企業の製品開発や人材育成、新産業創出事業費補助金等を実施し中小企業の新技術・新製品開発等を支援することで、本市の中小企業の競争力向上を図り、粗付加価値額の増加に繋げるとともに、東京2020オリンピック・パラリンピック等の機会を活かした交流人口と旅行消費額の拡大を図りKPIの達成を目指す。
3	都市計画マスタープランの拠点に居住する人口		2013年	52,358 人	2024年	53,000 人	2019年度実績で、52,692人まで進捗した。平成30年度に策定した立地適正化計画に基づき、拠点を含む誘導区域への居住誘導を図る。
4	自分にはよいところがあると思う子どもの割合		2013年	小学校80.9% 中学校74.4%	2024年	小学校85.0% 中学校80.0%	2019年度実績で、小学校85.2% 中学校78.6%まで進捗した。子供の個性に応じた支援体制を整備することにより、子供と大人の心の通い合う温かい人間関係を構築し、夢と希望を持って学び、生きる力を身につけていく。
5	都市計画マスタープランの拠点に居住する人口		2013年	52,358 人	2024年	53,000 人	2019年度実績で、52,692人まで進捗した。平成30年度に策定した立地適正化計画に基づき、拠点を含む誘導区域への居住誘導を図る。
6	市民1人当たりのごみの排出量		2013年	898 g/人・日	2024年	851 g/人・日	2019年度実績で、864g/人・日まで進捗した。2030年に向けて引き続き、市民・事業者とともに、生ごみの水切りや雑がみの分別・食品ロスの削減施策などを中心に、ごみ減量・資源化の取組みを推進していく。
7	自分の生命と財産は自分で守らなくてはならないと思う人の割合		2014年	76.4 %	2024年	80.0 %	2019年度実績で、78.3%まで進捗した。これまでの出前講座、市広報紙などによる啓発に加え、防災学習センターを活用し、家具の固定や飲料水の備蓄など、「自助」について市民へ更なる啓発を行う。
8	環境に配慮して生活していると思う人の割合		2014年	55.1 %	2024年	66.6 %	2019年度実績で、41.4%にとどまっている。移動環境教室や環境フェスなどの環境教育、海岸・湖岸の清掃美化活動、生物多様性保全の取組みを通して、市民へ学習や活動の機会を提供し、身近な自然や地球環境問題への意識を高める。

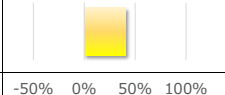
1. 全体計画

行政体内部の推進体制	自治体SDGsの情報発信・普及啓発の取組状況・課題	有識者からの取組に対する評価
<p>■各種計画への反映状況や課題</p> <p>【浜松市総合計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SDGsの推進に係る取組を、2020年度の間見直しに併せて反映を検討 <p>【浜松市戦略計画2019】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2019年度から、全事業を体系的に管理する政策・事業シートにおいて、SGDsの17ゴールとの関連性を明確化させ、職員の意識付けを実施 <p>【浜松市“やらまいか”総合戦略】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SDGsの推進に係る取組を、2020年度を始期とする第2期総合戦略に反映 <p>【第2次浜松市環境基本計画 改定版（令和2年4月）】において、新たにSDGsについて記載し推進</p> <p>【浜松市森林・林業ビジョン】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・林業政策の企画・立案にあたっては、本ビジョンの方針に基づき、毎年度目標の設定等、進捗管理を行いながら進めており、FSC森林認証制度に基づく持続可能かつ適切な森林経営管理など、SDGsの推進に係る取組をより重点化 <p>【浜松市エネルギービジョン】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SDGsの推進事項等を踏まえ、2019（令和元）年度に浜松市エネルギービジョンを改訂 <p>■行政体内部の執行体制及び首長のリーダーシップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市長をはじめ、全ての部長等を本部長として組織する浜松市地方創生推進本部を活用し、SDGs推進体制を構築 	<p>■全体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報はままつに、SDGsに関する市長コラムや連載コラムを掲載 ・市民に対する出前講座によりSDGsについて普及啓発するとともに、市の取組を情報発信 ・各種団体が主催するSDGsに関するイベントにおいて、市の取組等を情報発信 ・JR浜松駅北口広場「キタラ」における掲示物によるPR <p>■森林関連</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「浜松地域FSC・CLT利活用推進協議会」では、持続可能性の証明として非常に有効であるFSC森林認証を官民一体となって推進 ・「天竜林材業振興協議会」では、FM認証林の維持管理・面積の拡大により、FSC認証の原則と基準に則り、地域内外に普及啓発活動を推進 <p>■エネルギー関連</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視察対応や講演会、国際的な展示会への出展により、本市の取り組みを発信 ・浜松市スマートシティ推進協議会会員企業に対しメルマガなどにより情報発信 	<p>■KPIを見る限り、順調に推移していると思料する。SDGsが多様なゴールに気づかせるツールであることに鑑み、KPI以外の分野も含め、多様なゴールの重要性を各ステークホルダーに認識してもらえと共に、施策実施においても多様な観点からのチェックを行うことができる仕組みを構築することを期待する。</p> <p>■浜松市は、UCLGの国内唯一の参加自治体であり、こうしたネットワークを通じて積極的に情報発信していることを評価する。一方、UCLGの活動の輪を日本において広げられるべく貢献することを期待する。</p> <p>■「浜松地域FSC/CLT利活用推進協議会」においてFSC森林認証を官民一体となって推進していることを評価する。また、FSC森林認証面積拡大に向け、着実に実績を積んでおり、こうした実績の要因について解析した結果を他の自治体に提供することができるよう今後検討されることを期待する。</p>
ステークホルダーとの連携	地方創生・地域活性化への貢献	
<p>■全体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SDGs達成に向けた、企業・団体・個人による幅広い活動の推進のため、浜松市SDGs推進プラットフォームを設立・運営 ・ステークホルダーとの協働をテーマとしたシンポジウムを開催 <p>■森林関連</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「浜松地域FSC・CLT利活用推進協議会」において事業推進方針にSDGs未来都市に認定された浜松市と連携することを掲げ、総会時に「SDGsと木材利用」をテーマとした基調講演を開催 ・市内6つの森林組合からなる浜松地域森林組合協議会をはじめ、森林・林業・木材関係の団体・民間企業等に浜松市SDGs推進プラットフォームへの参画を促進 ・港区との協定締結をはじめ、中野区や川崎市、名古屋市と連携しFSC森林認証を周知。国連で開催された地方自治フォーラム（ハイレベル政治フォーラムにて取組を国際的に情報発信。 <p>■エネルギー関連</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浜松市スマートシティ推進協議会の会員企業を核としたスマートプロジェクトを推進。また、ユーザーを含めた会員企業間の事業マッチング及び情報交換等を実施 <p>■多文化共生社会関連</p> <p>（1）域内の連携：浜松市多文化共生推進協議会において、国、県の関係諸機関や市内の諸団体の協力・連携により多文化共生のまちづくりを推進するための意見交換を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浜松市外国人市民共生審議会を開催し、外国人市民が地域生活を営む上での諸問題や共生の推進について調査審議し、市へ提言 <p>（2）自治体間の連携：外国人集住都市会議を通じ、外国人市民との共生のための相互連携、情報交換、課題共有、国などへの提言活動を実施</p> <p>（3）国際的な連携：世界最大規模の自治体連合組織であるUCLGへの参画を通じて、海外諸都市との都市間交流及び連携を図り、日本で唯一参加する自治体として情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・欧州評議会が主導するインター・カルチュラル・シティ（ICC）・ネットワークへアジアの都市として初めて加盟し、海外諸都市との連携を通じ、互いの知見の共有及び本市の多文化共生施策の情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人人材を含む、多様な労働者が参加する「全員参加型社会」を実現 ・林業・木材産業の成長産業化、天竜材の利用拡大などを進め、林業振興を推進 ・エネルギーに不安のない強靱で低炭素な社会「エネルギー・スマートシティ」を実現し、エネルギーを持続的かつ安定的に確保 	

SDGs未来都市等進捗評価シート

2018年度

1. 全体計画

	取組名	ターゲット	指標名	当初値	2019年	2020年	達成度 (%)	進捗状況や課題等 (定性指標や補助指標等を含む)
自治体SDGsの 推進に資する 取組の 2021年のKPI	林業・木材産業の成長産業化	8.2 8.3	森林組合等における年間素材生産量	2017年度 12.6 万㎡	2019年度 14.1 万㎡	2020年 15.1 万㎡	 60%	FSC森林認証によるブランド化や地産地消・地産外商の両面に取り組みとともに、林業従事者の確保・育成に向けた支援等を行ったことで木材生産量は順調に増加した。
		9.1 9.2	製材事業者における製材品販売量 (浜松地域林業成長産業化地域構想参画者)	2016年度 11,000 ㎡	2019年度 12,000 ㎡	2020年 13,880 ㎡	 35%	製材ベースにおいては、基準値を若干ではあるが上回ることができた。
			木材流通事業者における製品販売量 (浜松地域林業成長産業化地域構想参画者)	2016年度 4,200 ㎡	2019年度 3,716 ㎡	2020年 5,880 ㎡	 -29%	製品ベースにおいては、基準値及び目標値を下回る結果となった。地域構想に掲げた販路拡大に向けたイベントや異業種間のマッチングなどを進めているが、更なる施設整備等のハード事業や雇用確保による生産体制の整備に取り組む必要がある。
	天竜材の利用拡大	4.1 4.2	森林・環境教育受講者数	2017年度 681 人	2019年度 642 人	2020年 700 人	 -205%	「天竜のこれからの森を考える会」と連携し、小中学生を中心に森林・環境教育を進めたが、基準値及び目標値を下回る結果となった。事業に対する評価は高いため、今後、森林・環境教育に関するPR活動を強化する必要がある。
		11.1 11.3	天竜材使用木質化件数	2018年度 17 棟	2019年度 5 棟	2020年 20 棟	 -400%	非住宅建築物における天竜材による木質化の推進を目的とした補助制度「天竜材ぬくもり空間創出事業」を実施したが、制度の周知不足等により十分な活用が図られなかった。令和2年度は制度改正やPR活動を実施し、現在、多くの申請・問合せがある。
		12.2 12.7 12.8	天竜材使用木造住宅数	2017年度 218 棟	2019年度 146 棟	2020年 250 棟	 -225%	全国的な新築住宅着工件数が減少傾向にある中、本件数も伸び悩んだ。
	持続可能な森林経営の推進	13.1	F S C森林認証面積	2017年度 45,131 ha	2019年度 48,542 ha	2020年 46,000 ha	 393%	約3,300ha拡大し、市町村別取得面積全国第1位を維持した。
		15.1 15.2 15.4	森林間伐面積	2016年度 2,692 ha	2018年度 2,456 ha	2018～2020年の累計 6,000 ha	 41%	間伐、除伐等の森林整備事業を支援したが、当初値の数字をわずかに下回った。目標値は2018～2020年度の累計であり、引き続き、森林整備の推進を進めたい。 ※達成度 = 実績値 (2019年) / 目標値 (2020年) で算出。
	分散型エネルギーの導入	7.1 7.2 9.1 9.2	エネルギー (電力) 自給率	2017年度 13.8 %	2019年度 16.0 %	2020年 15.7 %	 116%	太陽光発電のけん引により再エネ導入が進展し、2019年度末で16.0%となった。その他、風力発電やバイオマス発電等の事業計画が上がるなど、今後の導入がさらに見込まれる。

1. 全体計画

	取組名	ターゲット	指標名	当初値	2019年	2020年	達成度 (%)	進捗状況や課題等 (定性指標や補助指標等を含む)
自治体SDGsの 推進に資する 取組の 2021年のKPI	スマートコミュニティの創出	9.1 9.2 11.1 11.2	スマートシティに資するプロジェクトの創出数	2017年度 5 件	2019年度 8 件	2020年 10 件	-50% 0% 50% 100% 60%	浜松市スマートシティ推進協議会の会員企業を中心に、スマコミのモデル地区4カ所、モデル事業3事業のスマートプロジェクトを推進。その他、スマートタウンに1件が認証。
	外国人の子どもの就学状況の実態を継続的に把握し、訪問による就学案内・情報提供、教育相談等、就学に向けた教育支援を行うことにより、不就学の解消を目指す	4.1 4.4	外国人の子どもの不就学児童生徒数	2018年度 3 人	2019年度 4 人	2020年 0 人	-50% 0% 50% 100% -33%	関係機関との連携により、就学状況の継続的な把握に努め、訪問による面談やカウンセリングをはじめとしたきめ細かな支援を行っている。 就学に課題を抱える外国人の子供たちは、学校に通うことに対する不安だけでなく、家庭問題、経済的問題、日本語能力、生活習慣の未習得などの課題を抱えており、日本語指導をはじめ、母語指導、日本の生活・文化へ適応支援などが課題となっている。定住化の進展により、多国籍化が進んでおり、日本語教育支援体制の充実が求められている。